

《担当者名》礒部 太一 (tisobe@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

科学技術社会論の概要を、講義形式だけではなく、映像資料等を参照しながら、ワークショップ、グループワーク、発表等を実施し能動的に学ぶ。日常生活において身近な科学技術と社会の関係や、科学技術への市民参加、科学技術コミュニケーション等の概要を学際的な観点から幅広く取り扱う。

【学修目標】

科学技術社会論の基本的な概要や問題事例を理解し身につける。

科学技術・医学と社会の関係について、自分の日常生活と関連付けながら学ぶ。

グループワークと発表等の参加型の学習を通じて、議論するコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	授業全体の予定や授業の進め方等の説明	礒部 太一
2	科学技術社会論の概要	科学技術と社会の関係について概説できる。	礒部 太一
3	科学技術社会論の概要	科学技術と社会の関係について概説できる。	礒部 太一
4	科学技術社会論の概要	科学技術と社会の関係を巡る歴史的背景について概説できる。	礒部 太一
5	科学技術社会論の概要	科学技術と社会の新しい関係について概説できる。	礒部 太一
6	科学技術への市民参加	リスクコミュニケーション、科学技術への関与の仕方について概説できる。	礒部 太一
7	科学技術への市民参加	リスクコミュニケーション、科学技術への関与の仕方について概説できる。	礒部 太一
8	科学技術コミュニケーション	科学技術への信頼の危機、サイエンスカフェについて概説できる。	礒部 太一
9	科学技術コミュニケーション	科学技術への信頼の危機、サイエンスカフェについて概説できる。	礒部 太一
10	科学の不確実性	科学の完全無欠という誤解、科学と社会の利害関係・価値観との絡み合いについて概説できる。	礒部 太一
11	科学技術へのエスノグラフィー	身近な科学技術についての参与観察を実施する。	礒部 太一
12	グループワークと発表	「科学技術と社会」をテーマにしたグループワークと発表を実施する。	礒部 太一
13	グループワークと発表	「科学技術と社会」をテーマにしたグループワークと発表を実施する。	礒部 太一
14	期末レポートについて	レポートの書き方、期末レポート課題の内容を理解する。	礒部 太一
15	まとめ	授業全体のまとめ	礒部 太一

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

期末レポート（100％）

【教科書】

戸田山和久（2022）『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版

【参考書】

平川 秀幸（2010）『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』日本放送出版協会

山崎 亮（2012）『コミュニティデザインの時代 - 自分たちで「まち」をつくる』中央公論新社

神里 彩子・武藤 香織 編（2023）『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』東京大学出版会

【学修の準備】

- ・授業の前後において、教科書の該当箇所を一読する（80分）。
- ・授業内で出した課題について、次回の授業の際までに行なっておく（50分）。
- ・授業内で実施するグループワークと発表に積極的に参加する。一部、授業外で宿題として実施する（30分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。

DP2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。